

アカデミックリテラシー

責任者・コーディネーター	人間科学科文学分野 平林 香織 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科文学分野、哲学分野、法学分野、体育学分野、心理学分野		
担当教員	平林 香織 教授、遠藤 寿一 准教授、廣瀬 清英 講師、小山 薫 講師、藤澤 美穂 助教		
対象学年	1	区分・時間数	演習 21 時間
期間	前期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

大学での学びとはどのようなものであるのかということを知覚し、真剣な学びに必要な技術を身につける。正しい日本語について知識を身につけ、他者の表現を正しく理解できるようになることで、自分の考えをまとめたり、それをわかりやすく伝えたりすることができるようになる。そのための技術をさまざまな角度で学び、専門的な学習に向けての基礎力を養う。

・一般目標（GIO）

大学での学びに必要な態度・技術の基本を身につける。図書館の利用法や論説文・資料読解方法・資料整理法といったリサーチ・スキルやプレゼンテーションの方法や論理的な文章やレポートの書き方といったアウトプット・スキルを身につける。また、コミュニケーション能力を向上させ、聴く力、話す力を向上させ、他人との意見交換を積極的に行えるようにする

・到達目標（SBO）

1. 図書館を効率的に多角的に利用することができる。
2. 講義や講演、他者の発表などをしっかりと聴くことができる。
3. 正しい日本語によるわかりやすく、説得力のある表現することができる。
4. 論述文の背後にある議論の論理構造を意識しながら、読解することができる。
5. 法的三段論法を例に、論理的な文章を作成することができる。
6. ものごとを異なった立場から見る複眼的な考察をすることができる。
7. 論理と根拠にのっとった主張を行い、他者の主張の論理的根拠を検証することができる。
8. 専門科目の学習に必要な学問的方法を理解することができる。

・講義日程 (矢) 東 204 2-C 講義室、東 206 2-D 講義室、東 203 マルチメディア教室、大堀記念講堂

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/14	月	1	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 小山 薫 講師 藤澤 美穂 助教	全体説明会 (MDP合同 大堀記念講堂)

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/15	火	1	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教 小山 薫 講師	クラス1：図書館活用術 クラス2：日本語表現の技術1 (マルチメディア教室・図書館)
4/17	木	1	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 小山 薫 講師 藤澤 美穂 助教	クラス1：日本語表現の技術1 クラス2：図書館活用術 (マルチメディア教室・図書館)
4/25	金	3	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	ディベート1
5/2	金	3	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	ディベート2
5/16	金	3	人間科学科	平林 香織 教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	クラス1：論理的な表現 クラス2：聴く技術
5/19	月	3	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 小山 薫 講師 藤澤 美穂 助教	遠野昔話を聴く (MDP合同 大堀記念講堂)
5/23	金	3	人間科学科	平林 香織 教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	クラス1：聴く技術 クラス2：論理的な表現
5/27	火	3	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授	クラス1：日本語の技術2 クラス2：読む技術
5/27	火	4	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授	クラス1：読む技術1 クラス2：日本語の技術2
5/29	木	3	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	ビブリオ・バトル予選1

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/29	木	4	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	ビブリオ・バトル予選 1
5/30	金	3	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	ビブリオ・バトル決勝 1 (MDP合同 大堀記念講堂)
5/30	金	4	人間科学科	平林 香織 教授 遠藤 寿一 准教授 廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 助教	ビブリオ・バトル決勝 2 (MDP合同 大堀記念講堂)

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	日本の選択 あなたはどちらを選びますか？	池上彰	角川書店	2012

・成績評価方法

出席状況(10%)、受講態度(20%)、課題提出状況(20%)、確認テスト(50%)によって総合的に評価する。

・特記事項・その他

<p>1.三学部合同、2クラス（クラス1・クラス2）編成、少人数編成等さまざまな形態で行う。</p> <p>2.開講に日時・会場が不規則なのであらかじめシラバスで確認しておくこと。</p> <p>3.グループごとにディスカッションをしたり、プレゼンテーションをすることが多いので、積極的自発的な態度で臨むこと。</p> <p>4.6月9日に確認テスト、6月13日にフォローアップを行う。</p> <p>5.予習のポイント：本や新聞をよく読む習慣を身につけて、多角的な視野と問題意識をもとう。</p> <p>6.復習のポイント：学習した内容について友人と十分にディスカッションしたり問題を掘り下げたりしよう。</p>

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット（エルモ、東芝、他）	1	講義資料の提示
講義	ノートパソコン	1	講義資料の提示